

## 盛岡商工会議所 第2期経営発達支援計画 令和2年度事業の評価・検証結果要約

### 1. 経営発達支援計画について

「小規模事業者の事業の持続的発展を支援するため、商工会及び商工会議所が、小規模事業者による事業計画の作成及びその着実な実施を支援することや、地域活性化にもつながる展示会の開催等の面的な取組を促進するため、商工会及び商工会議所が作成する支援計画のうち、小規模事業者の技術の向上、新たな事業の分野の開拓その他の小規模事業者の経営の発達に特に資するものについての計画」を経済産業大臣が認定

### 2. 盛岡商工会議所 第2期経営発達支援計画について

平成27年7月の第1回認定に続き、平成30年3月の第5回認定において、2回目の認定を受ける。令和2年度は5年計画の3年目。(期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日)

※第2期経営発達支援計画において行政等との「連携事業」を含む21事業活動を実施。  
※商工会議所認定数：425か所(全国515商工会議所中) 認定率82.5% (令和2年10月現在)  
県内全ての商工会議所が認定済み。

### 3. 事業の評価・検証の目的

・評価・検証は、事業のマネジメントサイクルである PDS (plan=計画策定、do=事業の実施、see=計画の振り返り) システムを本認定事業で実践することにより、管内小規模事業者の持続的発展に向けた盛岡商工会議所の役割機能の一層の充実を図ることにある。従って、評価・検証は、今後のより有効な対策を講じることを目的としている。

### 4. 事業の評価・検証の方法

- 事業計画に基づき担当部職員が実績をまとめ、内部評価を行う。
- 評価・検証委員会にて、各事業の総合評価を行う。
- 評価・検証委員会の審議結果(評価案・改善提言)は、中小企業振興委員会が最終評価案を決定のうえ、決議機関である常議員会で協議し、その承認をもって最終決定とする。
- 最終決定された結果については、盛岡商工会議所ホームページにて公表する。

### 5. 令和2年度 事業の評価・検証作業の経緯

令和3年1月31日～2月8日 各事業の担当部署にて内部評価を実施。  
令和3年2月9日～17日 第2期経営発達支援計画「評価・検証委員会」による事業評価・検証を実施。  
令和3年3月11日 第2期経営発達支援計画「評価・検証委員会」による総合評価案の確定。  
令和3年5月31日 中小企業振興委員会委員による総合評価案の決定。

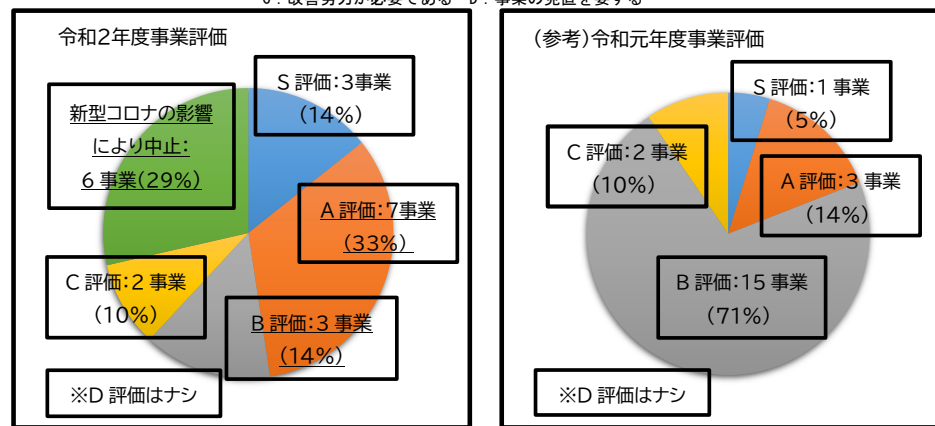
### 6. 事業評価・検証にかかる今後の機関決定スケジュール

- 令和3年6月22日 令和3年度「第3回常議員会」にて(総合評価案)承認。
- 盛岡商工会議所ホームページにて総合評価を公表。

## 7. 事業評価について

### (1) 第2期経営発達支援計画実施の21事業の評価について

<評価基準について> S:目標達成水準である A:ほぼ達成水準である B:未達であるが順調に推移している C:改善努力が必要である D:事業の見直しを要する



- 令和2年度の事業評価と令和元年度事業評価を比較すると、新型コロナウイルス感染症の影響により6事業が中止となったものの、課題となっていた事業者へのフォローアップと単発の相談で終わらないよう1事業者に対する重層的支援に注力したため、評価が2段階上昇した事業が3事業あったほか、B評価の事業も減少し、全体的に改善が認められる。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により中止した6事業の令和元年度評価の内訳は、S評価1事業、A評価2事業、B評価3事業となっており、引き続き改善を要する事業を含む。

### (2) 令和2年度事業評価を踏まえた令和3年度の対応方針

・上記の中止した6事業のうち前年度B評価であった「3事業」については、次年度A評価を目指す。また、今年度B評価の「3事業」及びC評価の「2事業」について、下記の改善を行い、次年度の充実を図る。

#### I-1 地域経済動向調査 (B評価)

→ 金融機関等から経済動向に関する生の情報収集を行う。また、商工会議所の情報管理システム(TOAS)のリニューアルにより支援先の詳細な財務内容・分析情報の内部共有が可能となるため、上記と併せ、事業者が計画策定するうえで有用となる情報の提供を行う。

#### I-4- (1) ② 定期的なフォローアップの実施 ②創業予定者 (B評価)

→ 創業予定者を十分な期間に渡って手厚くフォローできるよう、入口にもなる創業スクールの開催スケジュールを早め、以後の会員加入・事業計画のブラッシュアップ・資金調達支援・経営革新等に繋げるためにも、複数の職員により重層的支援を行う。

#### I-6- (3) 「販路開拓・拡大塾」事業 (B評価)

→ 新型コロナウイルス感染症の影響により、消費動向が大きく変化していることから、オンラインセミナーの手法も取り入れ、時勢に合ったセミナー内容を検討する。

#### II- (1) MORIO-Jポイントサービスの普及と推進 (C評価)

→ 外的要因により加盟店が減少しており、引き続き加盟店の拡大に注力するとともに、既存事業の何が優れているのか、消費者に対する訴求力の向上に努める。また、利用者の満足度向上にも目を向け、実効性のある新たなサービスの展開について検討する。

#### II- (5) 中心市街地と連携したイベント等の実施 (C評価)

→ 引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、当面は令和2年度と同様に、中心市街地の商店街等が実施する事業の間接的な支援を行っていくが、人員体制にも課題があり、今後の事業実施にあたる体制の見直しを図る。

盛岡商工会議所 第2期経営発達支援計画事業「評価・検証委員会」評価・検証総括表(令和2年度)

事業番号	事業名	事業実施に係る補足事項	H30 総合 評価	R1 総合 評価	R2 内部 評価	委員評価							R2 総合 評価	評価・検証結果 S:目標達成水準/A:ほぼ達成水準/B:未達であるが順調に推移している C:改善努力が必要である/D:事業の見直しを要する  改善提言、意見など
						委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員		
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
I-1	地域経済動向調査	創業や新規事業の展開を目指す事業主向けに市場調査に基づく需要分析を提供する。	B	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B	●商工会議所の情報管理システム(TOTAL OA SYSTEM : TOAS)の大幅なりニューアルを活用し、支援先事業者の詳細な財務内容・経営状況の分析など、企業の深掘りや質的充実につなげる。 ●金融機関・行政・他支援機関などから生の有用な情報収集を行い、上記と併せて事業者へ提供すること。また、情報提供を行った支援先事業者から、その有効性について確認し、以後の調査内容に活かすこと。
I-2	経営状況の分析	小規模事業者が自社の経営状況を適切に把握することで、計画作成の一助とする。	C	B	A	B	A	A	A	B	A	A	A	●コロナ禍の中で、来期についてはオンラインセミナーなど、時勢に合った内容のセミナーを検討・開催すること。また、新たな方法によるセミナーを十分に提供できる支援体制を整備すること。
I-3-(1)	既存事業者向け事業計画策定支援	セミナー受講後、指導員による巡回支援等の継続支援により、販路開拓に繋がる支援を行う。	B	B	S	S	S	S	S	A	S	S	S	●単発の相談で終わらないよう、他機関との連携を含めた仕組みづくりを検討し、継続的支援の体系化を図ること。
I-3-(2)	創業予定者向け事業計画策定支援	創業スクールは、受講者を増やすことより、起業をしたい意志の強い者の獲得に注力する。	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	●創業案件は、日本政策金融公庫や信用保証協会の利用が多いため、3者での協働体制の仕組みづくりができれば、更に良い効果が生まれる。 ●金融機関へ相談する創業者を「創業スクール」に誘導できれば、セミナー参加人数の増加も期待できる。
I-3-(3)	事業承継向け事業計画策定支援	事業者の掘り起しや事業承継の観点から、次世代塾を実施するとともに事業承継診断先への個別支援を行う。	B	B	A	B	A	A	A	A	A	A	A	●コロナ禍の中で、来期についてはオンラインセミナーなど、時勢に合った内容のセミナーを検討・開催すること。また、新たな方法によるセミナーを十分に提供できる支援体制を整備すること。 ●金融機関、支援機関それぞれ力を入れて活動している事項のため、協調・役割分担の仕組みづくりが有効。 ●事業引継ぎセンターが計画策定の大半を担っているのであれば、「事業計画策定支援」ではなく、「事業引継ぎセンターへの誘導」等とし、同センターの位置づけ・役割分担の再確認が必要。

盛岡商工会議所 第2期経営発達支援計画事業「評価・検証委員会」評価・検証総括表(令和2年度)

事業番号	事業名	事業実施に係る補足事項	H30 総合 評価	R1 総合 評価	R2 内部 評価	委員評価							R2 総合 評価	評価・検証結果 S:目標達成水準/A:ほぼ達成水準/B:未達であるが順調に推移している C:改善努力が必要である/D:事業の見直しを要する
						委員 ①	委員 ②	委員 ③	委員 ④	委員 ⑤	委員 ⑥	委員 ⑦		
I-4-(1)①	定期的なフォローアップの実施 ①既存事業者	専門家を活用し、計画作成の支援をしたが、その後のフォローアップはできていないことから、計画の進捗状況を確認する。	C	C	S	A	S	S	S	A	S	S	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>●四半期に1回以上の巡回などのフォローアップが目標であるが、実績としては半年ごとに1回となったため、回数も重要だが定期的なフォローアップを心がけること。</li> <li>●情報の横展開による共有化を更に充実させ、経営指導員のスキルアップに繋げること。</li> </ul>
I-4-(1)②	定期的なフォローアップの実施 ②創業予定者	創業計画との乖離等フォローアップに努める。	C	B	B	B	A	B	B	A	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>●創業に関する相談者の利便性向上の観点から、創業スクールとともに実施スケジュール等の改善・見直しを図ること。</li> <li>●創業者は会員の増加及び資金調達支援や経営革新に繋がる源泉であるという認識のもと、重点的に支援を行うべき。既存事業者に比べ、金融機関のサポートが薄い層であり、商工会議所の支援が求められる。</li> </ul>
I-4-(1)③	定期的なフォローアップの実施 ③事業承継予定者	事業引継ぎ支援センターと連携を密にし、丁寧に対応する。	C	B	A	A	A	A	-	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>●計画策定支援のみならず、その後の定期的なフォローアップでヒアリングを行い、新しい取り組みを始めた方には利用可能な補助金の案内をするなど多面的な支援を心がけること。</li> <li>●実績については、事業承継診断や事業引継ぎ支援センター連携など、事業承継に対するアクションを起こしたものとする。</li> </ul>
I-5-(1)	「もりおか広域・逸品フェア」来場者への需要動向調査	事前説明会において、本調査を行う意義を丁寧に説明するとともに、アンケート内容を精査する。	C	B	コロナの影響等により中止	-	-	B	C	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>※今年度はコロナの影響により実施中止。</li> <li>●アンケート調査の効率が悪いことが以前から指摘されているため、実施方法の見直しを検討すること。</li> </ul>
I-5-(2)	「もりおか街なかゼミナール」参加者への需要動向調査	受講者に対しアンケートを行い、結果を参加店で共有し、もりゼミ反省会において、参加店同士で自店の取り組みを共有できる機会を提供する。	B	A	コロナの影響により中止	-	-	B	C	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>※今年度はコロナの影響により実施中止。</li> <li>●今後の実施方法全般を含めた改善に期待する。</li> </ul>

盛岡商工会議所 第2期経営発達支援計画事業「評価・検証委員会」評価・検証総括表(令和2年度)

事業番号	事業名	事業実施に係る補足事項	H30 総合 評価	R1 総合 評価	R2 内部 評価	委員評価							R2 総合 評価	評価・検証結果 S:目標達成水準/A:ほぼ達成水準/B:未達であるが順調に推移している C:改善努力が必要である/D:事業の見直しを要する
						委員 ①	委員 ②	委員 ③	委員 ④	委員 ⑤	委員 ⑥	委員 ⑦		
I-6-(1)	「もりおか広域・逸品フェア」事業	当日の売上増加対策や商品・サービスをフェア終了後の来店・来客につなげる対策を検討する。	A	B	コロナの影響等により中止	-	-	B	C	-	-	-	-	※今年度はコロナの影響により実施中止。 ●ECサイト出店支援なども検討してはどうか。 ●今後の実施方法全般を含めた改善に期待する。
I-6-(2)	「もりおか街なかゼミナール」事業	参加店から受講者に対し、アフターフォロー(お礼状等)の実施を徹底し、売上増加に繋げる。	B	A	コロナの影響等により中止	-	-	B	C	-	-	-	-	※今年度はコロナの影響により実施中止。 ●地域の個店の魅力発信を続けてほしい。 ●今後の実施方法全般を含めた改善に期待する。
I-6-(3)	「販路開拓・拡大塾」事業	アンケート結果も鑑み、販路開拓・拡大に関し小規模事業者が抱える課題に沿った内容で実施する。	A	B	B	B	A	B	B	A	B	B	B	●コロナの影響により、消費動向が大きく変化していることから、それに対応する時勢に合った内容のセミナーとすること。 ●コロナ禍の中で、インターネット環境を利用した様々な手法のセミナーが開催されており、来期についてはオンラインセミナーの開催を検討すること。
II-(1)	MORIO-J ポイントサービスの普及と推進	ポイント事業の根幹である加盟店拡大、並びに流通ポイント増加のための販売促進活動に注力する。	C	C	C	-	C	C	C	C	B	C	C	●MORIO-JとWAONが連携しても、還元率的には魅力的なものとはいえない。〇〇ペイは、paypayが一人勝ちの状況であり、そこに更に参入するには、実効性のある施策や事業自体の見直しとともに、この事業の何が優れているのかを消費者に発信していく必要がある。 ●毎期低評価である。そもそも実施主体が三セクであり、発達支援計画メニュー(会議所が主体となって企業支援を行うメニュー)として、実績を評価することがないのではないか。
II-(2)	盛岡さんさ踊り	ホームページ等情報ツールの多言語化の推進や地域事業者への波及効果をより一層高めていく。	S	S	コロナの影響等により中止	-	-	B	C	-	-	-	-	※今年度はコロナの影響により実施中止。 ●小規模事業者も含め、会員企業と連携したさんさのPRや魅力発信は可能では無いか。支援している小規模事業者との関係性を深めるために、支援されている企業が一緒にグループで参加することは出来ないか。 ●そもそも県や市をあげての大きなイベントであり、発達支援計画メニュー(会議所が主体となって企業支援を行うメニュー)として、実績を評価することがないのではないか。
II-(3)	もりおか広域まるごとフェア	コンセプトを再検討するとともに市やJAなどと連携し、飲食屋台の出店に留まらないイベントを目指す。	B	B	コロナの影響等により中止	-	-	B	C	-	-	-	-	※今年度はコロナの影響により実施中止。 ●今後の実施方法全般を含めた改善を期待する。

盛岡商工会議所 第2期経営発達支援計画事業「評価・検証委員会」評価・検証総括表(令和2年度)

事業番号	事業名	事業実施に係る補足事項	H30 総合 評価	R1 総合 評価	R2 内部 評価	委員評価							R2 総合 評価	評価・検証結果 S:目標達成水準/A:ほぼ達成水準/B:未達であるが順調に推移している C:改善努力が必要である/D:事業の見直しを要する	改善提言、意見など
						委員 ①	委員 ②	委員 ③	委員 ④	委員 ⑤	委員 ⑥	委員 ⑦			
II-(4)	地元(岩手県産)食材活用推進事業	集客支援ツールのリニューアルや地域飲食業の更なる活性化を図る。	A	B	S	S	S	S	B	A	-	S	S	●経営指導の中から繋がった案件がどの程度あるのか確認すること。 ●コロナ禍によるマイナスの影響が大きい業種を対象とする事業であるため、知名度向上及び利用促進など更なる取り組み強化を願いたい。	
II-(5)	中心商店街と連携したイベント等の実施	市内商店街へ実態調査を実施し、HP等にてイベント情報を発信する。	A	B	C	C	B	C	C	C	C	C	C	●コロナが収束するまで、集客イベントの開催は難しい面もあるが、状況を見ながら、イベント内容を工夫することが必要。	
III-1	他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換	各種会議や研修会へ参加し、人脈形成や経営支援の現場に役立つ知識習得に努める。	B	B	A	A	-	A	A	B	A	A	A	●引き続き、外部機関と連携して円滑な事業者支援を行うこと。 ●民間金融機関等から実際に事業者のプラスになる生きた情報収集を行うこと。	
III-2	経営指導員等の資質向上等	支援現場で活用する共有マニュアルの作成や資質向上に向けた勉強会を開催する。	C	B	A	B	A	A	A	B	B	A	A	●次年度は事業継続のための資金繰り支援に加え、今期棚上げになってしまった経営支援などを実施してほしい。 ●情報共有化を図り、均質化による量的充実を図る方向に傾きがちだが、企業を深掘りしたり、独自の支援手法を確立する事を尊ぶ風土を形成し、質的充実を図っていく必要性をより強く感じる。後者のほうが、指導員側のモチベーションも上がり、結果として資質向上に繋がる。	
III-3	事業の評価及び見直しをするための仕組み	各評価・検証を行い、得られた評価結果に基づき次年度の改善を進める。	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	●コロナ禍の影響はまだ続くため、柔軟な対応が不可欠である。今期はコロナの影響で会議の開催をせずに書面だけで評価したが、実際にやってみて実態が掴み辛い面があり、事業評価がしにくい。質問もできるよう、オンライン会議等の実施について検討願いたい。	